

特別史跡

西都原古墳群

発掘調査・保存整備概要報告書 (XI)



宮崎県教育委員会

2007.3

本文目次

例言

第Ⅰ章 調査及び整備の経緯	1
第Ⅱ章 46号墳の調査	3
第Ⅲ章 111号墳の保存整備	7

例言

- 1 本書は、文化庁の補助を受け、宮崎県教育委員会が平成15年度から19年度の5カ年に実施する「西都原古墳群歴史ロマン再生空間形成事業」の平成18年度の概要報告書である。
- 2 発掘調査は宮崎県教育委員会が事業主体となり、宮崎県立西都原考古博物館が実施し、保存整備工事は宮崎県都市公園総合事務所に分任し実施した。
- 3 実施設計・監理は、(株)文化財保存計画協会に委託した。
- 4 本書の執筆は、二宮満夫が行った。
- 5 調査および保存整備にあたっては、西都原古墳群保存整備指導委員会の委員や特別調査員の先生方に御指導をいただいた。記して感謝する。
- 6 調査で出土した遺物は、県立西都原考古博物館において保管している。

第 I 章 調査及び整備の経緯

第 1 節 調査及び整備に至る経緯

大正元年から 6 年にかけて実施された、日本初の合同学術調査において、西都原古墳群では 30 基の古墳が調査されている。この調査は、総合的な視点での古墳調査ではなかったものの、出土遺物の質・量という観点からは、学史に残る成果が得られている。この調査以後、西都原古墳群に対する保存意識の高まりは大きくなり、昭和 9 年の国史跡指定に始まり、昭和 27 年の特別史跡指定、そして、昭和 41 年から 43 年には全国第 1 号となる『風土記の丘』として、環境整備、古墳の修復復元、資料館建設などの整備事業が実施された。

『風土記の丘』整備事業の後、史跡保存を目的として、約 30 年の眠りについてはいたが、再び西都原古墳群を整備し、「保存」から「活用」へ視点を向けた整備計画を実施することとなった。

新たな整備事業では、平成 5 年度から 6 年度での「西都原古墳群保存整備検討委員会」の設置および「西都原古墳群保存整備活用に関する基本計画」の策定に始まり、平成 7 年度から 9 年度での「大規模遺跡総合整備事業」、平成 10 年度から 14 年度での「地方拠点史跡等総合整備事業（歴史ロマン再生事業）」において、測量調査、発掘調査、施設建設などを実施した。さらに、平成 15 年度から新たな 5 カ年計画による「西都原古墳群歴史ロマン再生空間形成事業」として、西都原古墳群の発掘調査、復元整備を継続して実施している。

また、平成 16 年 4 月には、古墳群全体をフィールドミュージアムとして捉えた「県立西都原考古博物館」がオープンし、古代日向を通して、広く国内外の歴史情報を受発信している。

第 2 節 整備事業の経過

「西都原古墳群歴史ロマン再生空間形成事業」では、平成 15 年度に 46 号墳（前方後円墳）、111 号墳（円墳）、169 号墳（円墳）の発掘調査を実施し、寺原第 2 支群の環境整備、芝貼による 169 号墳の復元整備工事、4 号地下式横穴墓（111 号墳）の見学カメラの設置を行った。

平成 16 年度は、46 号墳、111 号墳の発掘調査を行い、新たに 170 号墳（円墳）の調査を開始した。さらに、169 号墳の復元整備工事を引き続き実施し終了した。

平成 17 年度は、前年度に引き続き 46 号墳、111 号墳、170 号墳の発掘調査を実施した。111 号墳、170 号墳に関しては、同年度で調査を終了した。

平成 18 年度は、引き続き 46 号墳の発掘調査を行い、111 号墳の復元整備工事の第 1 期目を実施した。平成 7 年度から 14 年度までの整備事業は、下記の報告書に詳しいので、参照されたい。

宮崎県教育委員会 2006 『西都原古墳群保存整備事業報告書』



第1図 西都原古墳群全図及び発掘調査・復元整備古墳位置図

第Ⅱ章 46号墳の調査

第1節 古墳の立地

46号墳は、西都原台地の南東部に展開する第1古墳群のほぼ中央に位置する。周辺には、北に72号墳、東に56号墳、南に1号墳、13号墳、36号墳、西に202号墳の前方後円墳が分布する。

第2節 調査の概要

46号墳は、後円部を西に向けた、ほぼ東西に主軸を持つ前方後円墳である。

前年度までの調査の結果、墳丘規模は、全長約84m、後円部径約50m、前方部前面幅約35m、くびれ部幅約19mを測り、後円部3段、前方部3段により築造されることが判明している。

葺石は、後円部・前方部ともに各段すべての斜面部で確認ができ、さらに、1段目根石列が2重にまわることが特記される。周溝は、1段目根石列から約1.5mの位置に内肩がみられ、深さ約0.4mを測る。ただし、外肩は明瞭な立ち上がりを設けていない。

本年度は、前々年度調査の北隅角トレンチの墳頂部方向への拡張、後円部南西のトレンチ、後円部墳頂における埋葬主体部の範囲確認、前方部と後円部が取り付く位置にある盗掘坑の調査を実施した。

調査の結果、北側隅角と後円部南西のトレンチで良好な葺石の保存状況を確認した。北側隅角の最下段斜面から周溝では、1個体以上に復元が可能な二重口縁の土師器壺の破片が集中的に出土した。壺の出土状況から見て、上位のテラス上に樹立していたと考えられる。また、2段目テラス上においても土師器壺の破片がまとまって出土した。

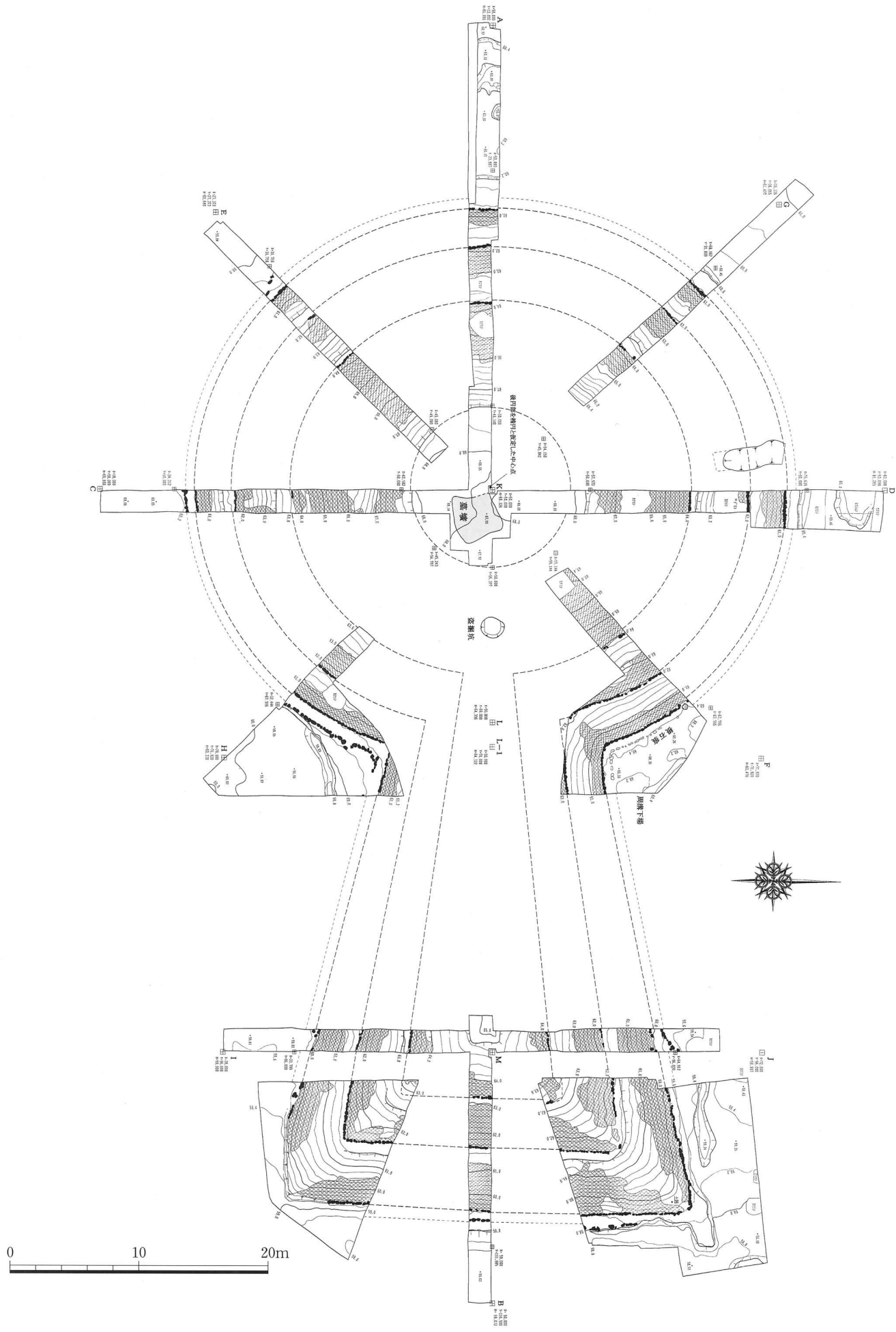
後円部墳頂のトレンチにおいて、埋葬主体部と考えられる一辺約3.6mの隅丸方形の墓壇を確認した。墳頂平坦面の南西部で南西―北東方向に主軸をとる。墓壇周辺では土師器の高坏・壺の破片が多数出土しており、特に墓壇北側に集中する。なお、46号墳は未掘古墳であるため、調査では墓壇の範囲確認のみに留まっている。

盗掘坑の調査では、現況地表から4mほど垂直方向に掘った後、後円部中心に向かってトンネル状に掘削されていることが判明した。盗掘坑からは、中世ごろとみられる土師器片の他に、空き缶などが出土した。

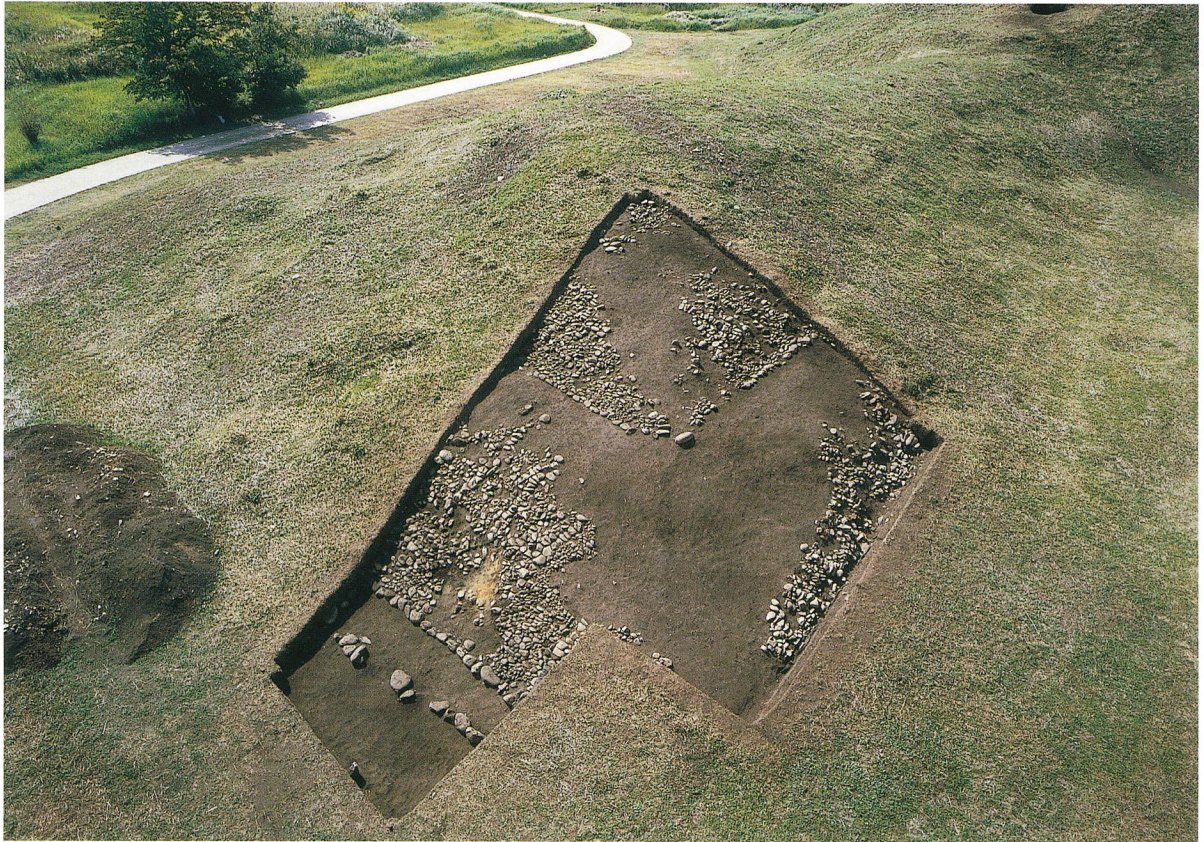
第3節 小結

今回の調査では、量としては少ないが、テラス上に土師器壺が樹立していたことが判明した。また、後円部墳頂平坦面における墓壇の存在や墓前祭祀を想定させる土師器群の出土も特記される。

今後は、墳形や出土遺物などの多角的な検討で、築造時期を含めた西都原古墳群における46号墳の位置づけを行っていきたい。



第2図 46号墳 墓石残存状況及びトレンチ配置図 (S= 1/400)



46号墳 北側隅角周辺（北東から）



同上 墳丘1段目土器出土状況（東から）



46号墳 後円部南西トレンチ（北東から）



同上 墳頂平坦面の墓壙（北西から）

第Ⅲ章 111号墳の復元整備

第1節 111号墳の調査概要

111号墳は、西都原台地の北部に展開する第3古墳群の最南端に位置する円墳である。標高は現状で約65mを測る。111号墳には、南側周溝内に構築面をもつ地下式横穴墓（4号）が存在し、玄室内に玉類、鏡、直刀、鉄鏃、短甲などが副葬されていた。また、平成13年から14年度にかけて、地下式横穴墓の保存整備のために、再調査が行われている。

111号墳については、平成14年度から整備に向けた発掘調査を開始し、17年度までに終了した。

墳丘中心から8方向に設定したトレンチ調査によって、墳丘築造後の堆積土及び「風土記の丘」における復元整備の状況を確認し、その後に全域を対象とした全面的な墳丘の検出を行った。調査の結果、111号墳は周溝を有する墳丘斜面を葺石で覆った2段築成の円墳であることが判明した。

墳丘1段目は後世の攪乱により大規模な削平を受けており、墳裾部だけを残す所がほとんどであったが、削平を受けた1段目以外の葺石については、保存状態は非常に良好であった。また、8方向に設定したトレンチにおいて、最大幅約5.5m、最大深約70cmを測る周溝を確認した。

墳頂部では、平坦面の中央部から南西部において、重複する墓壙3基を検出し、すべてについて半裁による確認調査を行った。3基すべてが木棺直葬で、そのうち第1主体部では、棺外で須恵器壺と土師器鉢、棺内で玉類と挂甲などが原位置で出土したことが特記される。

第2節 復元整備

復元整備については、設計を平成17年度に行い、工事を平成18・19年度の2ヵ年で実施するもので、今年度は第1期目にあたる。

遺構面の保護を最優先することを前提に、本来の墳丘面、葺石、墓壙を露出させずに、砂を5cmほど被覆させて遺構面を覆った後に、40~80cmの厚みの保護土を盛り土した。しかし、葺石については、良好な保存状況であったことから、古墳築造時の本来の姿を見学できるように、墳丘北西側1/8を露出展示することとした。なお、露出展示箇所以外の表面については芝を貼って仕上げた。

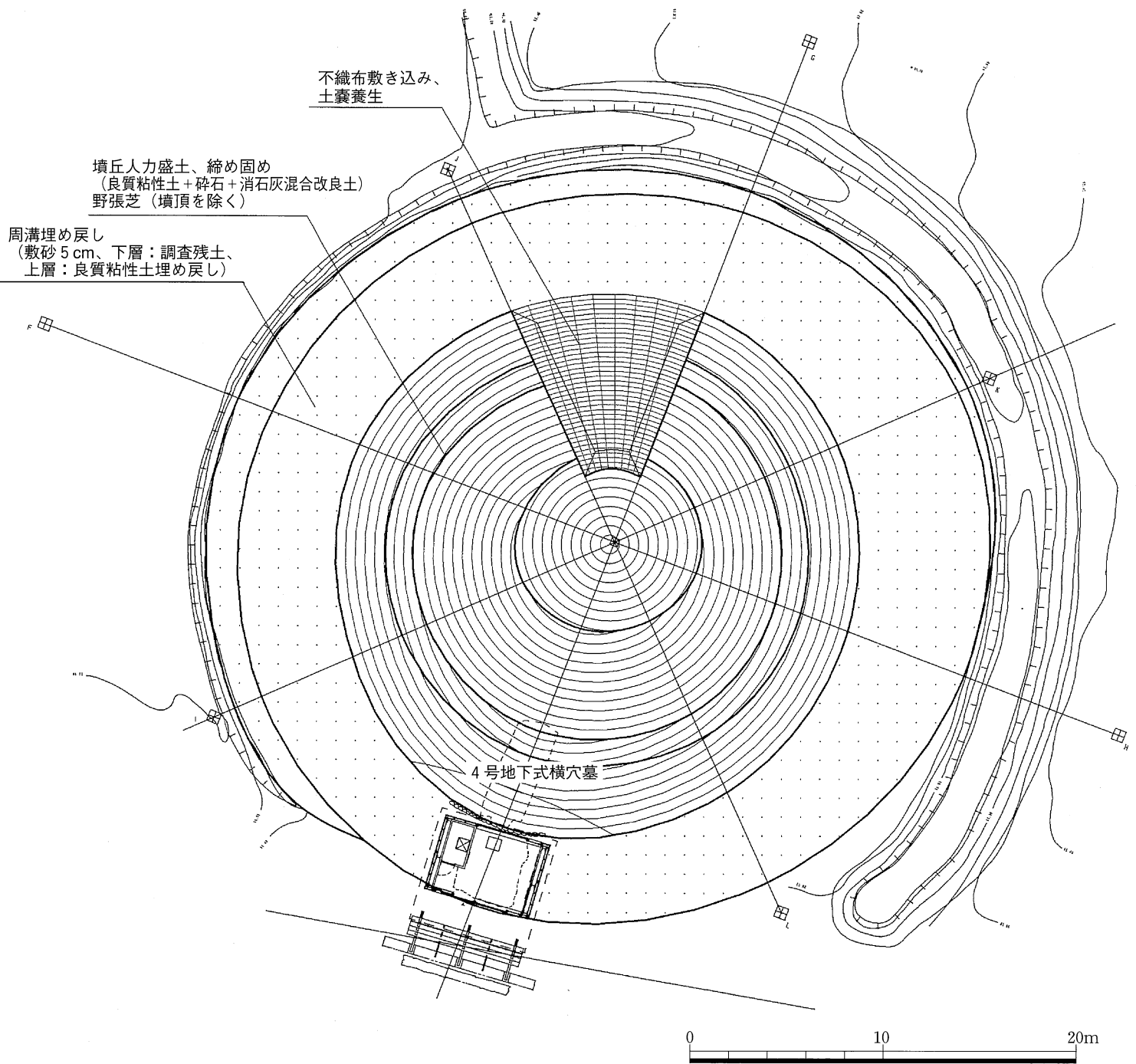
墳丘外形の復元は、残存する葺石、根石位置等を参考にして、墳丘各段の傾斜角度及びテラス幅を推定し、後世の削平によって破壊された墳丘部についても盛土をして築造当時の姿に復元した。

周溝については、整備後の雨水処理や墳丘及び周溝外肩の崩落・流出を考慮して、現況地表面の高さまで埋め戻した。なお、周溝の表示は、現況地形との高低差により生じた窪みで示している。

墳頂部の3基の墓壙については、保護土で遺構面を覆った後、サイン表示することとした。

葺石の露出展示と墓壙のサイン表示については、第2期目の工事で実施する。また、現代の造作と判明した墳丘を巡る周堤帯の除去についても、来年度に実施する。

転落した葺石は、現地保存を目的に周溝部の調査トレンチに埋め戻した。また、盗掘坑については、墳丘盛土の崩壊を防ぐために、荒砂を充填して埋め戻した。



第3図 111号墳 復元整備設計図 (S= 1 / 300)



111号墳 発掘調査時全景（西から）



111号墳 復元整備第1期目完了状況（北東から）

報告書抄録

ふりがな	とくべつしせきさいとばるこふんぐん はくつちようさ・ほぞんせいびがいようほうこくしょ							
書名	特別史跡西都原古墳群							
副書名	発掘調査・保存整備概要報告書							
巻次	XI							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編集者名	二宮満夫							
発行機関	宮崎県教育委員会							
所在地	〒880-0805 宮崎市橘通東1丁目9番10号							
発行年月日	2007年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
さいとばるこふんぐん 西都原古墳群	さいとしおおあざみやけ 西都市大字三宅	45208				2006.9 ～ 2007.3		
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	古墳	古墳	46号墳 墓壇、葺石 111号墳 墓壇、葺石、 周溝	土師器（壺、高坏） 須恵器、土師器 玉類、鉄製品（挂甲、 鎌など）、金銅製品		後円部墳頂平坦面に 一辺約3.6mの隅丸 方形の墓壇 墳頂平坦面に6世紀 初頭以降の重複する 3基の墓壇		

特別史跡

西 都 原 古 墳 群

発掘調査・保存整備概要報告書 (XI)

2007年3月

発行 宮崎県教育委員会

編集 宮崎県立西都原考古博物館

印刷 (株)印刷センタークロダ
